

第13期 平成28年度 事業報告書

(自 平成28年4月1日 ~ 至 平成29年3月31日)

社会福祉法人 信濃の星

平成28年度事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	長野市障害者相談支援事業
施設の名称	コーディネートプラザながの
施設の所在地	長野市川中島町今井1387-5 ハーモニー桃の郷3階

2 事業報告

営業日及び営業時間	月～金(祝日、12/29～1/3を除く) 9:00～18:00
職員数	2名
利用対象者	障害のある当事者・家族、及び関係者
利用者の状況	別紙
送迎	なし
車輛の利用状況	公用車1台使用
利用の料金・費用	なし
具体的な事業内容	<p>「長野市相談支援事業実施要綱」に基づく事業</p> <p>(1)障害者相談支援事業:個別の相談支援業務</p> <p>(2)相談支援機能強化事業:困難ケースへの対応、長野市自立支援協議会(長野市障害ふくしネット)の運営への参加、相談支援専門員との連携と人材育成、ネットワーク構築</p> <p>(3)成年後見制度利用支援事業:成年後見制度利用に関する支援</p>
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所や法人内の役割を見直す中で、業務内容が整理されてきた。 ・担当地区の保健師・包括・学校等から相談に繋いでもらっている。 ・長野圏域障害者総合支援センターの窓口として、県や他圏域、関係機関から紹介されることがあり、身近な地域へ繋いでいる。また総合支援センターとして関係機関から求められる役割への対応については、長野保健福祉事務所と相談・連携しながら対応している。 ・担当地区内での巡回訪問は行えなかった。地区の福祉活動計画検証の場など、会議の日程等で参加できなかった。地区で行っている地域ネットワーク会議等通して民生委員や地区社協と関わりを持っている。関係者から学習会等の依頼がある際には協力している。 ・多様な相談があり、中には様々な事情で福祉に繋がらない方やゴールが見えない方もいる。気軽に相談し繋がれる場として継続して関わり、必要な時に関係機関と繋げられるようにしている。 ・家族全体に課題があるケースについては、関係者同士で連携しながら関わりを持っている。 ・サービス等利用計画がついた後も相談支援専門員やサービス提供事業所と協力しながら、継続して取り組むケースもある。 ・ケアマネ連絡会として県の相談支援事業機能強化会議に出させてもらい、県や他圏域がどのような動きをしているのか、知る機会があった。ふくしネットの担当部会への参加・協力をした。 ・例年通り県の相談支援従事者養成研修に関わらせてもらった。またファシリテーターとして各種研修に協力した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービス事業所や相談支援専門員への繋ぎ方。どのタイミングで繋いでいくか、どの程度の情報を渡せるといいか等、悩みながらその都度対応している。 ・多様な相談に対応するために、幅広い知識や、地域や関係機関との協力が必要。他機関への繋がりが出来てないケースについては繋がりを保てるように気をつけたい。 ・国の動向を見ながら市が相談支援体制や協議会のあり方について考えている。 ・「長野圏域障害者相談支援センター」という不確かな存在に対するニーズへの対応。
↓ 次年度への具体的な 取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ふくしネットへの参加や日ごろの業務等を通して、相談支援専門員や関係機関の状況を知っていく。また関係づくりをしていく。 ・多様な相談に対応できるように、研修や協議会への参加・協力を通して、制度や障害・疾病等の知識を広げたり、国の動向を知る。地域の会議参加等出来るだけ行い、地域の状況を知る。 ・関係機関の動きを把握できるように意識し、必要に応じて役割分担等調整を図り、スムーズにそれぞれの業務が運営できるよう、担当者とともに協力しながら考えていく。

平成28年度事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	長野市障害者相談支援事業
施設の名称	コーディネートプラザながの 障害者虐待防止サポートセンター
施設の所在地	長野市川中島町今井1387-5 ハーモニー桃の郷3階

2 事業報告

営業日及び営業時間	月～金(祝日、12/29～1/3を除く) 9:00～18:00
職員数	2名
利用対象者	障害のある当事者・家族、及び関係者
利用者の状況	虐待相談、一般相談、虐待防止研修企画実施等 身体24件、知的21件、発達10件
送迎	なし
車輛の利用状況	なし
利用の料金・費用	なし
具体的な事業内容	<p>「長野市相談支援事業実施要綱」に基づく事業</p> <p>●虐待相談対応、権利擁護に関する業務</p> <p>(1)障害者相談支援事業:個別の相談支援業務、研修・啓発の実施、新たな施策に関する業務</p> <p>(2)相談支援機能強化事業:困難ケースへの対応、長野市自立支援協議会(長野市障害ふくしネット)の運営への参加。</p> <p>(3)成年後見制度利用支援事業:成年後見制度利用に関する支援</p>
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待通報の相談対応。・市虐待防止センターの補助業務。・虐待防止の啓発活動。 ・虐待防止の研修企画、実施。 ・市ふくしネットの事務局を併せ持つことから関係団体や機関等からの相談への対応など行った。 ・前年度からの、継続事案で虐待防止を関係者と連携できる体制づくりを、実施した。長野市障害者虐待防止連携協議会として困難事例や問題事例を共有する関係者が集まり年2回開催することが出来た。 ・福祉サービスを利用する相談者については、相談支援専門員に繋げることや、繋がっていくことが多くあった。相談支援専門員に円滑に引き継げるよう配慮し、バックアップ出来るよう心がけた。 ・ケアマネ連絡会の中で相談支援専門員向けの研修の企画、また、市内の相談支援専門員の人材育成のアドバイス等を行った。 ・H28年度も、昨年同様に施設や事業所の虐待が多くみられ、特徴として事務等含めた事業所が担う役割がずさんなところが多く、啓発活動として、虐待防止研修の中で、有識者から事業者としての倫理、職員としての倫理感等の研修を行った。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・市虐待防止センターとの連携で動くことが多く、市センターの担当者と多忙の中、日程調整をしながら、聞き取り調査や指導に出掛けたが、早めに調整が出来るとよい。 ・相談内容が複雑化している傾向があり、虐待だけではない支援が必要になってきている。また、虐待を行った事業所や法人に対する指導が虐待としての内容だけではなく、運営的なことも必要になってきている。 ・根が深い虐待案件は、29年度も引き続き、聞き取り調査と指導書に基づいた検証が必要である。
↓	
次年度への具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待困難事例に対応するために、市と連携を取り素早く対応したい。困難な相談に対応する際、関係機関と連携できるようにする。 ・障害者虐待防止連携協議会を年2回開催し、困難事例の対応と支援を検討できるようにする。 ・リーフレットを活用し、29年度は差別解消サポートセンターと共に、市内事業所、団体、関係機関等に周知活動を行う。 ・虐待防止、権利擁護に関する研修企画を28年度と同様に実施予定。

平成28年度事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	長野市障害者相談支援事業
施設の名称	コーディネートプラザながの 障害者差別解消サポートセンター
施設の所在地	長野市川中島町今井1387-5 ハーモニー桃の郷3階

2 事業報告

営業日及び営業時間	月～金(祝日、12/29～1/3を除く) 9:00～18:00
職員数	3名
利用対象者	障害のある当事者・家族、及び関係者、行政機関、民間事業者
利用者の状況	障害のある当事者・家族、及び関係者、行政機関、民間事業者等 個別相談 協議17件、研修19日 参加人数 511人
送迎	なし
車輛の利用状況	なし
利用の料金・費用	なし
具体的な事業内容	<p>「長野市相談支援事業実施要綱」に基づく事業</p> <p>●障害者差別に関する業務</p> <p>(1)障害者相談支援事業:個別の相談支援業務、研修・啓発の実施、新たな施策に関する業務</p> <p>(2)相談支援機能強化事業:困難ケースへの対応、長野市自立支援協議会(長野市障害ふくしネット)の運営への参加。</p> <p>(3)成年後見制度利用支援事業:成年後見制度利用に関する支援</p>
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・長野市差別解消センターの補助業務。 ・差別解消の啓発活動。 ・長野市ふくしネットの事務局を併せ持つことから関係団体や機関等からの相談への対応など行った。 ・長野市障害者差別解消連携協議会を立ち上げ、虐待防止連携協議会とも連携を深め、困難事例や問題事例を共有する関係者が集まり年1回開催することが出来た。 ・行政機関からの要請に伴い、研修活動を通じて差別解消法の周知に努めた。 ・一般企業が関わるケースでは、長野市の差別解消センターとも連携を図り、聞き取り調査から相談、解決に向けた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・市虐待防止センターとの連携で動くことが多く、市センターの担当者と多忙の中、日程調整をしながら、聞き取り調査等に出掛けたが、早めに調整が出来るとよい。 ・行政機関、一般企業等への研修活動は進んできたが、地域の住民自治協議会等へは呼ばれることが少なかった。
↓	
次年度への具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・差別解消事例に対応するために、市と連携を取り素早い対応で、困難な相談に対応できるよう、関係機関の連携を図る。 ・障害者差別解消連携協議会での、困難事例の対応と支援ができる仕組みを活用する。 ・差別解消リーフレットを活用し、29年度は虐待防止サポートセンターと共に、市内事業所、団体、関係機関等に周知活動を行う。 ・地域の住民自治協議会とも連携し、研修が開催できるように周知していきたい。

平成28年度事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	長野市障害ふくしネット(協議会)
施設の名称	障害者相談支援施設
施設の所在地	長野市川中島町今井1387-5 ハーモニー桃の郷3階

2 事業報告

営業日及び営業時間	年末年始を除く毎日(9:00~18:00) ふくしネットについては、随時
職員数	2名
利用対象者	障害者当事者及び家族、支援者、支援団体、関係機関、ボランティア
利用者の状況	参加団体約150団体(福祉事業所、当事者、学校、医療関係、行政、団体、企業、その他)
送迎	無
車輛の利用状況	無(必要時、相談支援事業の車両を借用)
利用の料金・費用	基本的に無料。委託費にて運営。見学会など経費がかかる行事は実費負担あり。
具体的な事業内容	<p>障害者総合支援法に基づき長野市が協議会(長野市障害ふくしネット)を設置。事務局をコーディネートプラザながのに置き、ハーモニー桃の郷、ふれあい福祉センターなどを主な会場に実施している。障害児・者やその家族が安心して暮らせる地域社会をつくるため、福祉施設・行政機関・学校・医療機関、そして当事者である障害のある人が参加してつくるネットワークとして運営している。各部会の開催のほか、作成物作成、行事の実施なども計画に合わせて行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■全体協議会(2回) 7/19(学習)トイゴ、3/28(年間報告と来年度に向けて)トイゴ ■施策フォーラム(5回) 継続内容:施策提言検討(触法等障がい者の地域生活支援に関する研究、生活介護事業所の入浴加算、看護師配置、指定相談支援事業所アンケートの実施) ■ケアマネ連絡会(毎週水曜日) 長野市ケアプラン審査、事例検討、部会内容、地域課題の検討等。他、各部会の担当として執行部参加。 <p>◇相談支援事業所連絡会(4、1月を除く毎月1回、12月はスキルアップ研修と兼ねて実施) 4月 研修会(2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■運営部会(部会長他) 年6回(協議会運営について) ■専門部会〔6部会〕子ども・しごと・かつどう・くらし・けんり・当事者(昼の部・夜の部)毎月1回程度、開催 内容(作成物・行事含む)は、部会ごとに決めている。 ■委員会「地域でいこう委員会」「医療的ケア支援委員会」月1回 ■研究会「共に暮らすまちづくり研究会」タウンミーティング8/3(水)52名、9/30(金)52名長野市役所講堂、11/25(金)37名、2/17(金)46名トイゴ

<p>評価</p>	<p>〔協議会の機能〕</p> <p>①情報機能 ケアマネ連絡会作成のふくしネット情報により他の部会の活動状況がわかりやすいと好評 情報ツアー、通所施設ガイドブックの長野市役所HPアップ(写真部分除く)。</p> <p>②調整機能 主に、委員会で具体的なケース調整が行われた。</p> <p>③開発機能 昨年度、施策フォーラムで継続検討されていた課題の整理を行ったことで、課題が明確になり取り組みやすくなった。しかし、長野市の予算の関係もあり提言内容の実現という部分は難しい。</p> <p>④教育機能 部会のあり方が変わり、関係・関心のある部会に参加することができるようになり以前に比べ、充実したように思われる。またスキルアップ研修では、予算を付けてもらったことにより県内外の先進的な取り組みをされている方、活躍されている方をお招きして学習会を行うことができています。</p> <p>⑤権利擁護機能 けんり部会の出前ミーティング(年3回)、共にくらすまちづくり研究会のタウンミーティング(年4回)など福祉関係者以外への啓発活動を積極的に取り組むことができた。また、差別解消サポートセンターが設置されたこともありセンター相談員による講習を行う部会もあった。ふくしネットフェスタを昨年引き続き行うことができた。</p>
<p>課題</p> <p>↓</p>	<p>1)部会関連の事業(世話人連絡会、企業懇談会など)で、経費を要求されることが多々あった。各部会に割り当てられている予算がないため、お断り、又は事務局費から対応をした。</p> <p>2)部会員から、ふくしネットの運営や目的に関することへの疑問点が多く出された。ふくしネット設置に関わった関係者の減少もあり、質問があった際明確な回答ができない。</p>
<p>次年度への具体的な 取り組み内容</p>	<p>1)28年度の収支を確認し、それをもとに29年度部会で使える経費をあらかじめ予定していく。</p> <p>2)市や関係者と打ち合わせ等しながら業務を整理し、進めていく。また、ふくしネット設置の経緯や歴史などを振り返り、目的や方向性を共有すること、今の市内の様子などから目的の一部見直しも視野に入れた話し合いの場を設ける。</p>

平成28年度事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	長野市障害者(児)サービス等利用計画受付業務(長野市委託事業)
施設の名称	コーディネートプラザながの
施設の所在地	長野市川中島町今井1387-5

2 事業報告

営業日及び営業時間	ケアプラン提出時間 平日 9:00~18:00
職員数	2名
利用対象者	主として長野市ケアプラン作成事業登録ケアプランナー及びその事業所
利用者の状況	H28年度実績 長野市ケアプラン4件、 計画相談3,168件 計画相談ミニリンク3,886件
送迎	無
車輛の利用状況	
利用の料金・費用	「コーディネートプラザながの」でのやり取りは無し
具体的な事業内容	<p>(1)計画相談に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 各事業所より提出された計画相談を受領し(データと書類)、提出書類の確認と受付簿作成。書類は市担当者別に分け提出。 内容確認の審査書類の作成。 <p>(2)ケアプラン審査に関する準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ケアプランの審査は月4回ケアマネ連絡会時に行う。審査の中立性と公正性が保たれるよう審査用の書類を作成しケアマネ連絡会に提出。(窓口での受け取り⇒書類作成 ⇒審査) 審査された書類の受け渡しと結果連絡(審査結果⇒長野市⇒各事業所へ) <p>(3)ケアプラン作成事業及び指定相談支援事業の推進・充実に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的開催されるケアプランナー・指定相談支援事業所連絡会に協力。 グループワークや学習会、ケアプラン・サービス等利用計画作成に関する研修会が連絡会で実施されており、協力する中で推進・充実を図る。 その他状況に応じて市や相談員と連携を図り、相談支援専門員、ケアプランナーの支援に協力する。
評価	<ul style="list-style-type: none"> 計画相談件数が前年より増加。 長野市外の方の計画相談や提出書類の不足等は作成者へ連絡をとり確認をとった。 受付後の書類は1週間に1回長野市・篠ノ井分室分へ書類を届けるよう定着できた。 計画相談内容確認の審査会を昨年同様に実施する意向をケアマネ連絡会より受け、審査書類の作成を行った。 ケアプラン審査も例年通り行い、ケアマネ連絡会に審査してもらった後速やかに市へ書類を届け、事業所へ連絡をした。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 計画相談移行、新規による件数の増加や、新相談支援専門員への対応として提出方法の再確認をする。 長野市ケアプランの提出について、市へ再確認。 受付窓口としては、事業所より提出された書類及びデータの確認・管理と担当者不在時の預り方の徹底をする。
次年度への具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> コーディネートプラザ職員に受取り方法の確認をし、担当者不在の場合は受取り日時を明記し書類のデータを所定の場所に保管する。 個人情報保護のため、持ち込むUSBと書類の保管については充分注意する。 引き続き各事業所より提出された書類を確認後定期的に長野市への提出できるようにすすめ、円滑に手続きを行うための補助をする。 市と相談しながらケアプランナー・指定相談支援事業所連絡会にて提出方法等都度確認する。 要望があれば、計画相談の抽出審査に向け書類作成が対応できるよう準備する。

平成28年度事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	長野市障害者(児)サービス等利用計画受付業務(長野市委託事業)
施設の名称	コーディネートプラザながの
施設の所在地	長野市川中島町今井1387-5

2 事業報告

営業日及び営業時間	ケアプラン提出時間 平日 9:00~18:00
職員数	2名
利用対象者	主として長野市ケアプラン作成事業登録ケアプランナー及びその事業所
利用者の状況	H28年度実績 長野市ケアプラン4件、 計画相談3,168件 計画相談ミニクリニック3,886件
送迎	無
車輛の利用状況	
利用の料金・費用	「コーディネートプラザながの」でのやり取りは無し
具体的な事業内容	<p>(1)計画相談に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 各事業所より提出された計画相談を受領し(データと書類)、提出書類の確認と受付簿作成。書類は市担当者別に分け提出。 内容確認の審査書類の作成。 <p>(2)ケアプラン審査に関する準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ケアプランの審査は月4回ケアマネ連絡会時に行う。審査の中立性と公正性が保たれるよう審査用の書類を作成しケアマネ連絡会に提出。(窓口での受け取り⇒書類作成 ⇒審査) 審査された書類の受け渡しと結果連絡(審査結果⇒長野市⇒各事業所へ) <p>(3)ケアプラン作成事業及び指定相談支援事業の推進・充実に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的に開催されるケアプランナー・指定相談支援事業所連絡会に協力。 グループワークや学習会、ケアプラン・サービス等利用計画作成に関する研修会が連絡会で実施されており、協力する中で推進・充実を図る。 その他状況に応じて市や相談員と連携を図り、相談支援専門員、ケアプランナーの支援に協力する。
評価	<ul style="list-style-type: none"> 計画相談件数が前年より増加。 長野市外の方の計画相談や提出書類の不足等は作成者へ連絡をとり確認をとった。 受付後の書類は1週間に1回長野市・篠ノ井分室分へ書類を届けるよう定着できた。 計画相談内容確認の審査会を昨年同様に実施する意向をケアマネ連絡会より受け、審査書類の作成を行った。 ケアプラン審査も例年通り行い、ケアマネ連絡会に審査してもらった後速やかに市へ書類を届け、事業所へ連絡をした。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 計画相談移行、新規による件数の増加や、新相談支援専門員への対応として提出方法の再確認をする。 長野市ケアプランの提出について、市へ再確認。 受付窓口としては、事業所より提出された書類及びデータの確認・管理と担当者不在時の預り方の徹底をする。
↓	
次年度への具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> コーディネートプラザ職員に受取り方法の確認をし、担当者不在の場合は受取り日時を明記し書類のデータを所定の場所に保管する。 個人情報保護のため、持ち込むUSBと書類の保管については充分注意する。 引き続き各事業所より提出された書類を確認後定期的に長野市への提出できるようにすすめ、円滑に手続きを行うための補助をする。 市と相談しながらケアプランナー・指定相談支援事業所連絡会にて提出方法等都度確認する 要望があれば、計画相談の抽出審査に向け書類作成が対応できるよう準備する。

平成28年度事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	長野市リフトバス車両運行管理業務
施設の名称	コーディネートプラザながの
施設の所在地	長野市川中島町今井1387-5

2 事業報告

営業日及び営業時間	リフトバス運行 利用時間 1日8時間程度(原則8:30~17:00)
職員数	2名
利用対象者	長野市に住所を有し、障害者手帳の程度が下肢又は体幹の機能障害3級以上の車いす使用者を2名以上含む団体またはグループ。
利用者の状況	H28年度利用状況・登録団体51・運行回数178回
送迎	無
車輛の利用状況	
利用の料金・費用	一般の運行に関しては無料。高速道路など発生した料金は別途実費徴収
具体的な事業内容	<p>①管理車両の運行計画の作成(予約受付等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用予約は3ヶ月前からとし、1団体1ヶ月2回、年間10回の利用を限度に、利用月の前月20日を締切りとし、予約受付。 <p>②管理車両の点検整備及び清掃の委託(アリーナとの連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3ヶ月点検、車検、リフト点検(年1回)の実施。市へ報告。 ・故障時修理。 <p>③管理車両運転に関して(アリーナとの連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予約受付後、運転日報、受付簿、利用申請書をアリーナ、市へ提出。利用変更は都度連絡。 <p>④管理車両の駐車管理に関すること。</p>
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年通知したリフトバス利用にあたっての申込みや利用いただく際の注意点は1年経過し、だいぶ定着してきた。 ・利用する際の団体登録は、福祉サービスを利用するという基準に対応する事により、利用する側の意識の向上にもつながった。 ・申込み締切り後の利用希望や等については、市とアリーナの了解を得て対応できた。 ・利用申込書の提出期限を守らない団体、記入漏れが多い点は改善が難しい。 ・利用団体から運行中の苦情連絡を受け、(株)アリーナへ連絡。改善策の報告を受けた。 ・長野市長との懇談後に要望が通った旨の連絡を受け、1団体の今後の受付方法を長野市に準じた受付に変更するよう対応した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・特例として認められる利用時間及び運行範囲についての対応等。 ・利用申込書の記入方法についての確認。 ・長野市イベント関連の利用の考慮。 ・安全策として、シートベルト着用困難な方への対処方法。 ・昨年は運行中の駐停車の苦情があった。安全な駐停車可能な場所の確保について。
<p style="text-align: center;">↓</p> 次年度への具体的な 取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・長野市リフトバス利用にあたっての留意事項等は障害福祉課ホームページに掲載していただき、利用方法を明確する。座席図面等追加事項検討。必要時市障害福祉課担当者と相談し対応する。 ・利用受付時に申込書の提出期限を伝え期限を守るよう知らせていく。 ・安全対策が充分か見直す機会を設ける。 ・申込書の行程が安全に駐停車可能な場所か確認をする。

平成28年度事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	①長野市障害者相談支援事業(市委託) ②指定(特定・一般)相談支援事業(法定) ③長野市ケアプラン作成事業(委託) ④障害支援区分認定調査
施設の名称	まい・すてっぷ相談支援室
施設の所在地	長野市栗田1038-8 ゆたかビル1階

2 事業報告

営業日及び営業時間	月～金(祝日、12/29～1/3を除く) 8:30～17:30
職員数	5名
利用対象者	長野市内に住む障害児者・家族、関係機関等
利用者の状況	<p>●長野市障害者相談支援事業 登録者262名 (内訳:身体障害 56名/知的障害 48名/精神障害 88名/ 発達障害 51名/重症心身障害 15名/その他 4名) ※長野市障害者相談支援事業の相談実績については別添資料の通り</p> <p>●指定特定相談支援事業 計画相談作成ケース 70名 (内訳:身体障害者 37名/知的障害者 18名/精神障害者 14名/発達障害者 1名)</p> <p>●長野市ケアプラン作成事業プラン作成ケース 0名</p>
送迎	無
車輛の利用状況	家庭訪問・支援会議・会議出席等に公用車1台、公用車登録の自家用車3台を利用
利用の料金・費用	相談・計画相談作成・ケアプラン作成ともに無料
具体的な事業内容	<p>●長野市障害者相談支援事業</p> <p>(1)障害者相談支援事業:個別ケースの相談支援事業 (2)相談支援機能強化事業:困難ケースへの対応、長野市自立支援協議会(長野市障害ふくしネット)の運営への参加 (3)住宅入居等支援事業:住宅支援に関わる支援 (4)成年後見制度利用支援事業:成年後見制度の利用に関する支援</p> <p>●指定(特定・一般)相談支援事業・ケアプラン作成事業</p> <p>・計画相談支援(サービス利用支援・継続サービス利用支援) ・基本相談支援</p>
評価	<p>●長野市障害者相談支援事業</p> <p>・一般相談の年間の新規ケース(継続)は70件程となり、サービス利用前の相談や、サービス利用につながらないが支援が長期にわたって必要なケースが主になっている。また、家族全体に支援が必要なケースや、触法など、特に司法(弁護士・刑務所等)との連携が必要なケースが増えている。</p> <p>・登録者の内訳をみると、すべての障害に対応するという一次的な相談窓口の役割は果たせているのではないかと感じる。こども専門相談員が配置されてから(他法人)、こどもの割合が減っている。</p> <p>●指定(特定・一般)相談支援事業・長野市ケアプラン作成事業</p> <p>・個別ケースの支援内容についての検討ができるとよかった。 ・認定調査は問題なく行えた。 ・長野市単独事業のケアプランの作成はしていないが、作成時に困らないように事業所内で勉強したい。</p>
課題	<p>●長野市障害者相談支援事業</p> <p>・福祉サービス以外の支援機関などとの連携をどう作っていけるか。総合相談窓口として、様々な情報や知識を得ていく必要がある。計画作成に関わる相談支援専門員とも情報を共有していけるようにする。</p> <p>●指定(特定・一般)相談支援事業・長野市ケアプラン作成事業</p> <p>・どんな面でスキルアップを求められているのかの見極めが必要。 ・利用者のニーズに応じて、プランの見直しができる力をつけていく。</p>

<p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">次年度への具体的な 取り組み内容</p>	<p>●長野市障害者相談支援事業</p> <ul style="list-style-type: none">・相談援助技術やスーパーバイズについては、障害者相談支援センター相談員の会議(ケアマネ連絡会)や相談支援専門員協会等の各種研修への参加などで積極的に研鑽していく。・地域の関係機関への巡回を積極的に行い、地域の課題や支援が必要なケースの掘り起こしを行う。 <p>●指定(特定・一般)相談支援事業・長野市ケアプラン作成事業</p> <ul style="list-style-type: none">・定期的な訪問や面談を、計画的に行っていきたい。・各種研修へ積極的に参加し、関係機関との連携を強めていく。・知り得た情報や支援技術を、実際の相談支援の場面で活かしていく。
--	---

平成28年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	地域活動支援センターⅡ型
施設の名称	ぴあ・ふれんず
施設の所在地	長野市栗田1038番地8 ゆたかビル1階

2 事業報告

営業日及び営業時間	月～土(祝日、年末年始除く)10:00～17:00 実開所日数:276日※月曜は10:00～15:00 15:00～ミーティング
職員数	5名
利用対象者	身体障害者を中心に三障害受け入れ
利用者の状況	登録:身体障害者50名 知的障害者17名 精神障害者28名 その他582名(延利用人数3056名)
送迎	なし
車輛の利用状況	クリッパー(軽車輛:H25.1登録)職員移動のみ利用
利用の料金・費用	無料(活動内容により実費負担)
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ①基礎的事業…利用者に、創作的活動、生産活動の場の提供・支援等(日中活動、パソコンの活動、手工芸による活動、調理、DVD鑑賞等)、生活リズム立て直し支援、視覚障害者支援(機器の貸し出し、場所提供等) ②機能強化事業…ピアカンによるサポート、訓練的トレーニング(外出・調理等)、リフト付きバス利用の外出、就労支援(勉強会、事業所見学等)、地域活動参加、大学生介護等体験受け入れ ・1日の流れ 10:00～12:00と13:00～15:00日中活動、15:00～17:00フリー※日中活動は個人で決める。 ・開館日および開館時間 祝祭日を除く月曜日～土曜日(企画により閉館あり) 月10:00～15:00 火～土10:00～17:00 ・歳末たすけあい募金特別配分金申請 ホットプレート、電気ポット、スクリーン、車イス(日中活動で使用)
評価	<p>ぴあ・ふれんずでは身体障害者を中心として、障害のある方の利用受け入れを行なっている。28年度利用者は身体の方が人数的には多く、毎年の傾向で女性が多い。年齢は10代から80代まで幅が広い。1日の利用人数は10人前後、企画時は15人以上の方が参加している。活動内容が自由のため様々な事が行なわれている。全体の雰囲気は静かである。利用の方々は、自分のペースを守り、周囲に迷惑をかけることなく、各々で活動しているが、時には数人でゲームをしたり、会話を楽しんだりしている。若い世代は、社会での自立を目指し、家以外の場所としての時間をもち、生活リズム作りの1歩として過ごす方も多い。1人暮らしの方は、会話ができ、人がいる場所で過ごす目的で利用する方が多い。日々の個別活動は、自主性を第一としているが、地活の企画として交流・学習・体験できる場の提供も年間を通じ行った。また地域・社会の中で、障害があっても「自分らしく暮らす」「自分の力を活かす」「経験を積む」「今後に繋がる支援をする」ことを意識し、出前講座、各種勉強会をシリーズにし開催した。年齢を超え、障害を超え、参加して頂き日々の生活、今後の生活に地活を活かして頂けたと感じている。ただ、利用者1人1人の思いを聴き、個々のニーズに合った、望まれる支援が細やかにできたか、前向きに支援を継続できたかという点や、地域に向けての交流や配信を事業所側からできなかった点では、反省と今後の事業所としての課題だといえる。</p>
課題	<p>支地域活動支援センターの意味、活動の不明瞭さ、事業所の特色など、利用する方に伝わらないことで利用から離れてしまった事。まだ地活の存在や支援内容を知らない方が多い。『知ってもらう』『来てもらう』をまず目指して、事業所情報の発信を行っていく必要がある。また、支援者側の障害理解の学習、支援方法のスキルアップに努めるため、各種勉強会の参加、支援の中を広げるために、地域団体、市、法人本部など関係機関と連携をとり、支援体制を整えていく事が求められる。</p> <p>事業所では、当事者の思い、支援への希望を聞き、一緒に考え情報や選択肢を提供していく。一人一人が具体的な目標を掲げた「個別支援計画」をできるだけ作成し、1つ1つ結果を積み重ねられるような場になる</p>



次年度への具体的な
取り組み内容

- マイステップ自立生活応援コースを実施
自立生活を目指す当事者に密接した、プログラムを企画。広く周知し、多くの人に参加してもらおう。
- マイステップ支援者・移動コースは検討中
- ピアカウンセリング事業の充実とピアサポーターの養成(予定)
当事者同士の交流・情報発信の場を提供し、お互いに支えあうことができる企画を開催する。また、びあ・ふれんずへ来所することの難しい方のために、こちらから出向きピアカウンセリングを紹介し身近に感じてもらう。次の担い手となるピアカウンセラーの育成にも力を入れる。
- 視覚障害者支援の強化・内容の周知
ボランティアの養成とボランティア団体のネットワークを作り、定期的に情報交換・提供をし、支援の基礎を作る。点字プリンター、デイジーなどの機材の取り扱いを支援者が身につけ、紹介できる場を設ける。
- 関係機関主催の学習会、当事者の交流会、などにも参加し、地活の周知と特徴を広く訴え、利用に繋げる。
- 地活利用者と利用の目的・方向を一緒に考えていく。
- 地域団体、公民館、関係機関への通信の配布・地域行事への参加

平成28年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	生活介護
施設の名称	びあっと
施設の所在地	長野市箱清水2丁目11-2

2 事業報告

営業日及び営業時間	月～土 9:00～16:00
職員数	10名
利用対象者	身体、知的、精神
利用者の状況	身体24名、知的5名、精神10名
送迎	有り、他マイカー1名
車輛の利用状況	送迎用 キャラバン1台、クリッパー1台、アトレー1台、ファンカーゴ1台
利用の料金・費用	サービスに要した費用の原則1割、または利用者本人等の負担能力に応じ、市町村が定めた額プラス実費(昼食代350円とお茶代50円)
具体的な事業内容	<p>生活介護事業・・・入浴、食事、排せつ介助の支援、日中活動、行事の提供</p> <p>日中活動では体操、歩行練習、立ち上がり練習、風船バレー、PC、ピアノ、カラオケ、塗り絵、貼り絵、ゲーム、読書、デッサン、おやつ作り、美術鑑賞、裁縫、近隣の散歩(善光寺仲見世、城山公園)</p> <p>行事では お花見、室内運動会、スポーツ移動教室、七夕まつり見学、夏まつり、イオンに外出、美術館へ外出、クリスマス会、新年会、節分(善光寺)、雛祭り外食、音楽療法、他飲食や買い物を伴う外出</p>
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・びあっとの利用者のニーズでは入浴と外出希望が多くあります。28年度は日中活動や行事において、びあっとの環境を活かした近隣への散歩や外出企画を多く行い、ニーズに応えた活動ができた。 ・新規利用者については、びあっとの周知活動を積極的に行い、新規利用者を15名契約した。途中で介護保険に移行した方や、入院で辞められた方がいたが、給付額は上がり赤字を解消することができた。 ・職員体制では4月以降、管理者、サービス管理責任者と支援員4名を新規に増員し、びあっと内の雰囲気も安定した。現在、利用者は落ち着いた環境で利用をして頂いている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・更に、新規利用者を確保し給付額を上げる。 ・利用者のニーズに合った日中活動を活発に行い、利用者の利用継続につなげていく。 ・職員の増員と介護技術の育成、各障害に関する教育を行う。
↓ 次年度への具体的な 取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員、病院の相談員、地域包括支援センター、地域の相談員に毎月定期的に訪問し新規利用者の確保につなげる。 ・昨年度に引き続き、日中活動、行事を利用者のニーズに応えられるように企画・活動を行う。また、利用者定期的にモニタリングをしていく。 ・利用者の増加に伴い職員数の確保を行い、基本的情報と実技的な介助方法や利用者への接遇の研修を行い育成する。

平成28年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	生活介護
施設の名称	ぴあっと・まつおか
施設の所在地	長野市松岡1丁目13-11

2 事業報告

営業日及び営業時間	月～土 9:00～16:00
職員数	13名
利用対象者	身体、知的、精神
利用者の状況	身体31名、知的5名、精神2名
送迎	有り
車輛の利用状況	送迎用キャラバン2台、ハイゼット2台
利用の料金・費用	サービスに要した費用の原則1割、または利用者本人等の負担能力に応じ、市町村が定めた額プラス 実費(昼食代150円・お茶代50円等)
具体的な事業内容	生活介護事業・・・入浴、昼食、排せつ介助、日中活動、行事の機会を提供した。 日中活動では、体操、口腔体操、歩行練習、立ち上がり練習、風船バレー、PCピアノ、カラオケ、音楽療法、塗り絵、ハガキ作り、貼り絵、折り紙、おやつ作り、カードゲーム、ボーリング、輪投げ、魚釣りゲーム、外出、お茶会、スポーツ移動教室 ダンスチーム(ボランティア) 行事では お花見、バーベキュー、ボーリング大会、七夕まつり見学、夏まつり、バスハイク、運動会、秋の味覚を食べよう、クリスマス会、回転寿司食事会、節分会、ひな祭り
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・H28年4月現在、1日あたりの平均利用者数13名から、H29年3月現在の平均利用者数14.8名まで上がった。給付額についても4月分の280万から29年3月で370万まで増額している。新規利用者に稲荷山養護学校の卒業生を受け入れ行い養護学校と事業所間の関係が定着しつつある。 ・医療ケア利用者の受け入れ態勢をとり、新規利用へと繋がった。 ・職員体制について、職員2名の移動が有り人材不足のなか皆一丸となり業務を行った。H28年9月より支援員1名、11月より嘱託1名(兼務)が増員となった。 ・介助中の危険行為が3件あった。そのうち1件は結果的に大きな怪我にはならなかったが、受診し、保険会社で対応した。職員が危険行為の認識不足で教育が足りなかった
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・職員のスキルUP ・介助者の危険行為を無くし、利用者に安心・安全に利用して頂く。 ・最重度利用者受け入れに伴い経験ある看護師を採用する。 ・スタッフ不足
↓ 次年度への具体的な 取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ハローワーク、求人広告で人材募集を早急に行う。介護職員初任者研修終了者の採用を検討する。 ・新人介護職員の教育を「障がい福祉サービス従事者新人研修」の受講で行う。またミーティングにおいて基本情報と実技的な介助方法を伝え、共有していく。

平成28年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	就労移行支援
施設の名称	はたらくびあっと
施設の所在地	〒380-0801 長野市箱清水2丁目15番21-2号

2 事業報告

営業日及び営業時間	営業時間 月～金 8:30～17:30 利用時間 月～金 9:30～16:30
職員数	6名
利用対象者	3障害
利用者の状況	精神 1名、発達 1名 新規契約6名、就職 1名、就労継続支援B型へ移行 5名、契約終了 2名
送迎	有(主に身体を対象として)
車輛の利用状況	送迎 日産セレナ1台、キャラバン1台
利用の料金・費用	障害者総合支援法に定められたとおり
具体的な事業内容	<p>【就職支援】利用者個々に合わせ、就労へ向けた計画を立て、作業や訓練を通して必要な知識や経験を積み、自信を持って就労できるよう支援を行った。IT機器を中心とした訓練では、各種アプリケーションの習得、実践を行った。具体的な就職支援では、就職相談会やハローワークに同行し、ご本人の希望に合った就職先を探し、履歴書作成のアドバイス、模擬面接を行ったり、短期トレーニングの利用に向けての検討まで行ったが、採用には結びつかなかった。引き続き就職先を検討中。 養護学校の生徒の実習も積極的に行った。 【実践的な訓練】</p> <p>印刷(大判・名刺・チラシ・箔印刷)、カッティングシート、データ入力、ゴム印・年賀状・パンフレット・メタルアクセサリ等の作成(一般・法人内からの受注)。</p> <p>【健康管理支援】個々の面談において健康状態や精神状態を把握し、健康の保持増進および精神的安定を図れるよう、利用者と共に健康管理について考え、相談に応じた。</p> <p>【生活支援】利用者一人ひとりの個性に合わせ、社会人としての自覚をもち、生活リズムを整え、より安定した生活が送れるよう支援した。</p>
評価	<p>【就職状況】1名の利用者が就職に結びついた。(身体1名) 女性(40代・身体) 2か月限定の短期の仕事の為、6か月の定着とならなかった。また、その後体調を崩され、再利用されることも難しかった。27年度就職された1名、26年度就職された2名も継続中。とても良い状態で働いている様子。</p> <p>平成29年度加算対象3名(加算は92単位/日)(昨年度は241単位) 就職定着者が少なく、加算が大きく減ってしまった。また、過去2年に就労定着者がいないと給付が85%になってしまうため、29年度には定着者をできれば複数名確保できるよう危機感を持って取り組まなければならない。</p> <p>暫定利用を含め、Bに移られた方5名、就職以外に契約終了は2名。28年度新規契約者は3名。</p>
課題	<p>就職への強い希望は持ちながらも障害特性により非常に難しい状況の方が1名。何とか就労移行の期間内で就職に結び付けたい。1名は面接等チャレンジを続けており、引き続き支援を続け、無理なく、長く続けられる仕事を探したい。移行の利用者が減っているのと、就労定着で27年4月に就職された方以降の実績が残せていないため、減算になってしまわないよう、就職そして定着できるよう、また、利用者を増やし、給付増、加算増を目指す必要がある。</p>
次年度への具体的な取り組み内容	<p>↓</p> <p>カフェをなくし、お弁当作りに切り替え、作業も増やしていく計画なので、まずは利用者の確保に向け、養護学校や関係機関にアピールしていきたい。利用者が入られたら、日々の訓練を重ね、少しずつ技術や社会性の向上を図り、十分なスキルが身に付き、自信も持てるようになってきたところで、短期トレーニングやジョブコーチによる支援も活用しながら、実際の就職に向け、計画的に進めていきたい。利用者一人ひとりの支援内容を明確にし、スケジュールをたて、ご本人の納得のいく形で就労へ向けた支援を組み立てていく。就労支援員がジョブコーチの知識を活かし、ハローワークや職業センター等各専門機関とも密に連絡をとり、信頼を得てきているので、より良い就職への支援を続け、また新規利用者を紹介いただいたりできるように努力する。</p>

平成28年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	居宅介護事業 移動支援事業 同行援護 訪問介護事業
施設の名称	居宅・訪問介護事業所「おたすけ・ぴあっと」
施設の所在地	長野市大字高田川端西沖941-5

2 事業報告

営業日及び営業時間	日曜日～土曜日 AM6:00～PM23:00
職員数	7名
利用対象者	居宅介護:身体・知的・精神障害者 訪問介護:65歳以上の要介護者又、要支援者40歳～65歳の特定疾病をお持ちの方
利用者の状況	日曜日～土曜日 AM6:00～PM23:00
送迎	なし
車輛の利用状況	社用車:訪問用1台
利用の料金・費用	居宅介護:サービス費用の1割。又は利用者の負担能力に応じ市町村が定めた額。 訪問介護:通常の実施地域を超える場合の交通費
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉サービス ①居宅介護事業・・・身体介護、家事援助、通院介助を目的とするヘルパー訪問 ②移動支援事業・・・障害者の外出支援(余暇活動等) ③同行援護事業・・・視覚障害者の外出支援(余暇活動、買物、通院等) ・介護保険サービス ①訪問介護事業・・・身体介護、生活援助を目的とするヘルパー訪問
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・プランに添った個別支援計画を作成し、支援をしている。 ・毎月1回ミーティングは欠かさず行い、ヘルパーのスキルアップに繋げている。(どんな利用者にも対応できる技術を身につける) また、情報交換をする事でケア内容を話し合い、疑問や重圧が緩和でき次のケアの活力になるようにしている。 ・新規契約は可能な限り受け、実績を上げていく。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の課題として事業所の体制を整えていく。 ①営業をする事で、新規契約に結びつける。 ②ヘルパーを採用して人員を増やし、新規利用者を受け入れる。 ③ヘルパー人員増に伴い、スキルアップに力を入れる。 ④研修会、部会に参加し勉強していく事で知識や情報を吸収していく。
次年度への具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ①について・・・月1回、事業所に営業に行く。ケアマネやケアプランナーと連携を取っていく。 ②について・・・ヘルパー増員に伴い新規利用者を増やし実績に繋げていくには、募集や 情報交換など密に行っていく。 ③について・・・月1回のミーティングを計画的に行う。内容 としては、ヒヤリハット・手順の確認などを明確にしていく。また、報告・連絡・相談を再認識しヘルパー一人一人の質を高めていき、信頼される事業所として実績にも繋がっていくように努力していく。 ④について・・・研修会、部会などは、積極的に参加し情報や知識を身につけていく。

平成28年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	特定相談支援事業、一般相談支援事業、居宅介護支援、障害程度区分認定調査
施設の名称	おたすけ・びあっと
施設の所在地	長野市大字高田川端西沖941-5

2 事業報告

営業日及び営業時間	月曜日～金曜日 8:30～17:30 (年末年始を除く)
職員数	6名
利用対象者	・身体障害・知的障害・精神障害でそれぞれ手帳のある18歳以上の方・40歳以上65歳未満(特定疾病)・65歳以上の高齢者。
利用者の状況	・ 障害者計画相談 282 件 ・ 介護保険 16 件
送迎	なし
車輛の利用状況	モコ1台
利用の料金・費用	本人負担は無し、提供地域を超える相談は交通費を実費負担
具体的な事業内容	<p>事業目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者、高齢者、どなたの相談でも総合的に受けられる事業所を目指していく。 <p>障害者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体障害、知的障害、精神障害の相談支援をおこなっている。ケアプランの作成。サービスの調整など、必要に応じて行っている。 <p>高齢者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 40歳以上65歳未満の2号保険者で、特定疾病の対象者を含む65歳以上の要支援者、要介護者への介護予防プラン、要介護プランの作成、サービスの調整、担当者会議の招集、給付管理をおこなう。また障害プランから介護保険に移行の方の介護保険でのプランも受けていく。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 28年度は新規での依頼はほぼ断らずに受けてきた。 ・ 法人内の新規の方のケースは本人の意向に添ってのプラン作りが出来た。 ・ 28年度に障害から介護保険に移行の方は2名だが、本人家族の要望に沿ってのプラン作りが出来た。 ・ 新規での介護保険の方は6名おられ(1名死亡)5名となった。 ・ 事業所見学も2年目となり偶数月に就労継続事業所等を10事業所を見学、その後利用に結び付いた方もいらっしゃる。 ・ 稲葉から転居での初期費用が掛かったことや、相談員の人数の変化で人件費が掛ったこともあって相談単独ではマイナスの決算となった。 ・ 28年度は計画相談は282名、介護保険は16名となった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長野市では利用者様にほぼ計画相談の相談員が付いたこともあり、新規の依頼も少なくなってきた。現在4名で計画相談を受けているが、抱えている件数は飽和状態である。今後は今抱えている相談には真摯に向き合い丁寧なプラン作りを目指して行かなければならない。 ・ 介護保険を増やす方向で営業活動等をしたが増減はほぼ変わらずで、今後は引き続き営業活動も続けて行かなければなら ・ 相談事業所として経営的にプラスを目指す為の方法を考えていく。 ・ 相談員の増員が必要と思われる。
次年度への具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画相談で特定事業所加算を申請することとしたため、24時間の連絡体制や困難事例も受け、事業所内での検討会を毎週開催したり等の特定加算事業所にふさわしい体制を取っていく。 ・ 障害の方の介護保険への移行は基より、包括や事業所からの依頼は出来る限り断らずに受けていく。 ・ 毎月の相談事業所連絡会に出席し、事業所間の連携をとり、情報を収集し勉強していく。 ・ おたすけ訪問と常に連携を取り、毎月第1月曜には勉強会とミーティングを続けて行く。 ・ 今年度も事業所の見学を偶数月に実施して相談員の資源として活用していく

平成28年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	共同生活援助、短期入所
施設の名称	三津和園
施設の所在地	長野市信州新町山上条1561-1

2 事業報告

営業日及び営業時間	24H 365日
職員数	9名
利用対象者	障害者(精神・知的・身体)
利用者の状況	6名 (知的)
送迎	有り(利用者外出時(買い物・通院等)送迎実施(燃料代実費利用者負担))
車輛の利用状況	保有車両なし。外出送迎時は、つくし保有車輛を借用
利用の料金・費用	食費、光熱費など自己負担 月額5万～6万円
具体的な事業内容	3障害の方対象で、日中通所に通われる皆さんの、生活の場としての支援を提供する事業 1、家事等の日常生活の支援 2、食事、排泄、入浴等の介護 3、健康管理、金銭管理の援助 4、日常生活における相談 5、緊急時の対応 6、日中活動にかかわる他の事業所との連絡、調整
評価	・入浴や排泄および洗濯・掃除などの日常生活の支援を行い利用者が安定した日常生活が送れるようになった。 ・身体、精神面の変化が多くみられるなかで、関係機関と連携して支援に取り組むことができた。
課題	・職員間の意思疎通に課題が多くあった。 ・新規の利用者が決まらず、空室の期間が長かった。 ・昨年度から課題としていた職員の世代交代が進まなかった。
↓	
次年度への具体的な取り組み内容	・職員間のミーティングを密に行い情報を周知徹底していく。 ・職員の世代交代をすすめていく。 ・休日の余暇支援に軽めの運動を取り入れていく

平成28年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	地域活動支援センターⅢ型
施設の名称	長野市地域活動支援センターⅢ型 つくし
施設の所在地	長野市信州新町山上条1561-1

2 事業報告

営業日及び営業時間	月～金曜日 8:30～16:30 (祝祭日、盆、年末年始を除く)
職員数	3名
利用対象者	身体・知的・精神障害者
利用者の状況	現在 5名
送迎	無 (有) (現在 月火木金 水防会館まで)
車輛の利用状況	3台(セレナ・軽バン・軽トラ)所有 送迎、農機具運搬
利用の料金・費用	利用の料金は無料 実費負担有り 工賃有り
利用者の工賃	月平均 6,200円
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・老人ホーム等の清掃活動(月・水・金) ・農業 (山菜栽培 マキ束作り 水稻 露地物野菜 育成等) ・ガラスハウスを利用した野菜苗 稲苗栽培 ・栽培した野菜等の販売 ・パソコン印刷(名刺 はがき ラベル 分館報 等) ・歳末たすけあい共同募金 特別配分によるパソコンソフト イラストレーター等 ・業者下請けの仕事(印刷物差し込み、清掃) ・事業所内イベント(花見等) ・歳末たすけあい共同募金 特別配分掃除機によるプール草取り
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・冬期は仕事数が少なく単純な作業で利用者全員で行うことができた。 ・マキ束作りは、ガラスハウスを利用でき天候に左右されず効率よくできた。 ・稲作は天候不順による稲の倒れや水管理等のミスがあったが、収穫量は例年と同じ程度であった。 ・農作物は天気の影響があり、収穫、品質等余り良くなかった。 ・利用者の体調や都合により欠席があり利用者の減少となった。 ・今年は、寒暖の差があったが利用者、職員の健康管理等に、気をつけることができた。 ・新しい作業の試みの継続が難しかった。 ・農作物の収穫など、利用者と一緒に過ごすことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・農業が中心だが雨の日、冬季に利用者と一緒に出来る仕事が少ない為検討が必要。 ・各種農業の重なりが4, 5, 6, 7, 8, 9, 10月とあり、繁忙期の人員確保が難しい。 ・パソコン印刷のセールス、業務を増やす営業や宣伝が必要。 ・利用者の増減、作業能力や意欲の違いにより、作業人員の確保が難しい。 ・事業が分担するので職員の配置(職員の各自休暇の場合の対応策の検討)。 ・農作物の販売方法 (29年度は、施設等への販売と定期的な販売場所の拡充)。 ・経費が掛かる物に関しての節約計画、および実行。 ・利用者の通所(特に作業が出来る)を増やす。 ・利用者の高齢化に伴う施設利用者の減少。
次年度への具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季のマキ束作りの仕事を受注生産方式にして営業を行う。 ・野菜等の栽培スケジュールを明確にし、注文書を作成し作物のロスを最小にする。 ・繁忙期の人員確保を明確にし、予算管理も含め計画する。 ・利用者の個別支援計画を明確にし、計画及び見直しを行う。 ・パソコン印刷業務の営業を積極的に行う又、新規作業の検討を更に行う。 ・経費の管理を徹底し、節約計画を立て、実行する。 ・近隣の保健師さんや相談員さんと連携を深め新規の利用者を増やす。

平成28年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	就労継続B型事業所
施設の名称	ぐーと
施設の所在地	長野市稲里町下水鉋字北河原1315-2

2 事業報告

営業日及び営業時間	月曜～土曜 9:30～15:30(利用時間) ・ 11:30～17:00(カフェ営業時間)
職員数	7名
利用対象者	身体障害・知的障害・精神障害
利用者の状況	就労継続B型 身体2名・知的7名・精神7名
送迎	あり
車輛の利用状況	送迎車 ウィッシュ・セレナ(リフト車)
利用の料金・費用	障害者総合支援法に基づく利用料 ・ お茶代 50円/日
具体的な事業内容	<p>利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、就労の機会を提供するとともに、生産活動その他の活動の機会の提供を通じて、その知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援を行う。日中において生活リズムや食事等の栄養バランスの指導、生活等に関する相談及び助言その他の必要な生活上の支援を行う。</p> <p>・カフェ営業・ソーセージ、ハム、ベーコン等 製造・パン製造・お菓子、デザート 製造販売・小物作り</p>
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェでの経験を活かし、飲食店に就職され現在も継続中の方が1名いました。 ・8月よりカフェの夜の営業をなくし人件費や経費の削減に努め、又その分日中での利用者への対応ができるように配置などを検討していきました。 ・給付費がH28年4月 95万円 →H28年3月 140万 ・利用者の活動の幅を広げられるように新しい作業内容を1月より検討しはじめ、3月より実際に地域の企業さんからの委託の仕事を始めました。 ・長期休みの利用者が2名いましたが、その他の方は、安定して来られていました。新規利用の方は、H28年度は4名でした。 ・早目にチラシを作成し配布を積極的に行い、イベントの開催を通じて集客に繋がりました。カフェでのお客様もリピーターが増えました。 ・外販先でのイベントなどに呼ばれ参加する機会が増えました。 ・在庫(商品・食材)のロスをなくし、また光熱費などの経費削減に努めたがまだ仕入費などの経費がかかっている。 ・衛生管理など徹底して行きそれを継続して行えたことにより、クレームや異物混入等の事故は、ありませんでした。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで活動内容が固定しており幅広い利用者の方に対応できていなかった。 ・利用されている方は、安定して通所されているが新規利用者が少ない。 ・職員の支援の向上をはかる。 ・チラシ作成、配布により集客に繋がってきているが配布場所が限定されているところもある。 ・在庫(商品・食材)のロスや光熱費などの経費が多かかっている。
<p style="text-align: center;">↓</p> 次年度への具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・作業内容の向上を計り、様々なニーズに合わせた支援を行い、幅広く利用していただける方を増やす。 ・養護学校や関係機関に発信していき、利用者の確保に努める。 ・職員の支援の向上を目指し相談支援、虐待防止、調理師免許取得、接客マナー研修に参加しスキルアップをしていく。 ・それにより専門知識をもった職員により作業技術の向上や生活支援を行っていく。 ・地域の企業と関係を構築し、仕事の確保をして工賃アップを目指す。 ・営業日、営業時間などの見直しや在庫管理を徹底し、ロスを少なくし、水道光熱費などの経費も工夫をしながら職員一同削減に努める。

平成28年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	共同生活援助、短期入所
施設の名称	のんびりほーむ、のんびりほーむお2かい、のんびりほーむもも、のんびりほーむおとこ組、のんびりほーむさくらがおか

2 事業報告

営業日及び営業時間	365日24H
職員数	22名
利用対象者	3障害
利用者の状況	身体23名(精神・知的重複含む)、精神2名(知的重複含む)、知的4名
送迎	無
車輛の利用状況	無
利用の料金・費用	共同生活援助 家賃、食費、水光熱費、日用品など、月額 65,000円から75,000円
	短期入所 食費 700円/2食、水光熱費・消耗品 500円/1泊
具体的な事業内容	<p>(1) 共同生活を営むべき住居に入居している利用者に対し、一日を通し住居において行われる入浴、排泄及び食事等の介護、調理、洗濯及び掃除等の家事、生活等に関する相談及び助言、通所先その他関係機関との連絡、その他必要な日常生活上の支援</p> <p>(2) 個別支援計画に基づき、利用者が安心して有意義な生活を送れる為の支援</p> <p>(3) 利用者の金銭の取り扱い</p> <p>(4) 地域の住民との交流</p>
評価	<p>◎利用者が安心して有意義な生活を送れる様、利用者のニーズ等を職員全員が確実に把握をし、日々の変化等の申し送りを周知徹底した。</p> <p>◎利用者が計画的に金銭を使うことが出来る様に助言を行った。</p> <p>◎地域住民との交流に向け、職員がすすんで挨拶をする事。ゴミ出しや雪掻きなどマナーの徹底に努めることが出来た。</p>
課題	<p>1.慢性的な職員不足が解消されることが無く、サービスの低下がみられる。特に男性職員の平均年齢が高く、身体介護が多い職場でもあるため改善が求められる。</p> <p>2.精神、行動障害のある利用者に対して、職員の心的負担が大きく離職につながるケースがある。研修や心的フォローのシステム化。</p> <p>3.短期入所受け入れの際、重度の場合職員配置が現状では困難であること。</p>
↓	
次年度への具体的な取り組み内容	<p>1.利用者のニーズに応えるべき支援を万全の形で行えるよう、職員配置・シフト・ミーティング方法等見直すべきところは見直し、事業所及び職員のレベルの向上を行っていく。</p> <p>2.マニュアル化の仕組み作りを行い、サービスの均一化に取り組む。</p> <p>3.短期入所(重度)受入可能な職員体制の確保。</p>

平成28年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	研修事業
施設の名称	共同研修センター
施設の所在地	長野県長野市大字高田941-5

2 事業報告

営業日及び営業時間	不定期
職員数	2名
利用対象者	一般、施設職員関係者等
利用者の状況	雇用保険受給対象求職者、雇用保険を受給できない求職者、有職者等一般等
送迎	無
車輛の利用状況	無
利用の料金・費用	特に定めなし
具体的な事業内容	<p>法人や法人に関係する団体等の研修を毎年開催しており、関係する団体と共同で研修センターを設置し、研修の拠点として共同運営をしている。</p> <p>《職業訓練》 雇用保険を受給している求職者及び、雇用保険を受給できない求職者向けの職業訓練の委託を受けて介護職員を養成するための研修事業を運営している。 又、有職者等、一般対象者向けとしてコーディネートプラザ主催のマイステップカレッジ(移動支援サービス従業者)を開催している。</p> <p>《NPO関連研修》 長野県相談支援専門員協会、長野県ハンディキャブ連絡会、地域で暮らそうフォーラムの事務局として各研修の問合せ、研修運営スタッフとの情報伝達、資料受渡し等の窓口、及び研修で使用する機器、備品の常時保管、研修資料一式を保管管理する拠点として運営している。</p> <p>1. 求職者対象職業訓練 ①H28年4月26日～7月25日(委託元:長野県技術専門校) NN-02介護職員養成科 受講者20名、修了者19名、退校者1名 ②H29年1月5日～4月4日(委託元:独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構)定員20名 募集活動をしたが、人員が定員の半数に満たなかったため中止</p> <p>2. 団体、関係機関の研修、会議等で使用 ①マイステップカレッジ(移動支援サービス従業者養成研修)H28年10月20～12月26日 ②法人理事会、代表者ミーティング、経営会議等 ③NPO関連理事会、研修打ち合わせ等 長野県相談支援専門員協会研修年間8件 長野県ハンディキャブ連絡会研修年間4件(シルバー人材向け含む)</p>

<p>評価</p>	<p>団体と共同で研修の場所を確保していることで、研修を委託する関係機関に信用ができ、活動がしやすくなった。また、立地環境に恵まれており、収容人数も多いことから、関係機関の会議や法人の研修等も安定した会場があることで企画がしやすくなった。</p> <p>1. 求職者向け職業訓練 研修終了3か月後の就職率が78.9%で7割以上に達したので、訓練支援金プラス就職支援金が入手できた。又、訓練生の中から必要な人材を法人内への就職に繋げることが出来た。 研修センター内で介護研修の演習が可能になり、会場レンタル費用が削減されると共に訓練生の会場移動の負荷が軽減され、訓練アンケートの評価向上にも繋がった。</p> <p>2. NPO関連研修事業 研修実施に伴う打ち合わせや理事会等の会場として、集まりやすく研修事業の拠点としての活動が滞りなく遂行できた。(特に東北信地域での集まりには有効)</p>
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職業訓練が開講されない期間の研修室利用方法(利益となる方法) ・介護職員初任者研修の法人内講師の育成(外部講師の高齢化に対応) ・職業訓練生で、駐車場を要望する訓練生全員の確保ができない。
<p>↓</p> <p>次年度への具体的な 取り組み内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修室利用方法について、会議室レンタル企業、研修関係区等、可能な範囲で情報収集を行い、方法を検討。 ・法人内で、介護職員初任者研修の講師となれる人材の選出と講師向け研修受講により講師育成を図る。 ・職業訓練及び法人内の会議等で使用しない期間に、研修室をレンタルし使用料を収入源にできる方法を検討していく。